

大平 前衆議院議員の議席奪還必ず

党大田市委が決起集会

日本共産党大田市委員会は8月29日、総選挙躍進をめざす決起集会を市内で開きました。



大西修党市委員長は「政府のコロナ対策は後手後手になり、新規感染者は増え続けている。目前に迫った総選挙では大平よしのぶ前衆院議員（衆院比例中国）の議席を必ず奪還し、命を守る政治をつくらう」と呼びかけました。

大田陽介党中部地区委員長は「総選挙に向けて、集いを推進軸に『折り入って作戦』で担い手を広げ、読者拡大とともに党員を何としても迎えよう」と訴えました。

命の危険にまともに向き合う政府を

8月13日から降り続いた大雨は広島県や島根県などで大きな被害をもたらしました。私は雨が落ち着いた15

日、広島市の被災現場にかけつけました。西区の田方や己斐上、安佐南区の山本などどこも土砂崩れによる住家や車両などの被害が深刻でした。安佐北区では亀山の被災者から避難所の様子を伺いました。数十人が小学校の体育館に逃げ込み、それぞれ毛布一枚で雑魚寝。夕食は冷たいお弁当で、エアコンもシャワーもなくトイレも和式。その方もほとんど食事は喉を通らず一睡もできませんでした。

大平よしのぶ 前衆議院議員



アツく く さし く や さし く

翌16日、党広島市議団とともに広島市へ避難所の環境改善や民地の土砂撤去も市が行うことなどを申し入れ。それぞれ積極的な答弁が

豪雨被災 対策早く

党が松江・雲南両県土整備事務所に要請

■松江県土整備事務所

7月・8月の豪雨で土砂崩れによる道路の通行止め、河川の水位上昇による浸水被害、裏山崩壊による家屋の損壊など松江、安来の両市で多くの被害が発生した問題で、

日本共産党の尾村利成県議、松江、安来の両市議団らは8月25日、松江県土整備事務所（妹尾圭人所長）を訪れ、被災者から要望された河川の堤防のかさ上げや浸食護岸の整備、家屋の土砂撤去

う」と訴えました。むこせ慎一衆院2区予定候補は「大学卒業後に島根で就職し、地場産業を発展させることが地方経済の活性化につながる」と感じた。国民が主人公の政治をみんなで作ろう

う」と強調。（写真）大平氏から動画メッセージが寄せられ、宮脇やするう地区常任委員、亀谷ゆう子市議が決意表明。最後に、団結ガンバローで総選挙勝利に向け、意思統一しました。

あり、既に民地の土砂撤去や公営住宅の無料提供等が始まっています。今から7年前の8月20日、77人の尊い命が失われた広島市北部の土砂災害が発生しました。私は党の災害対策本部の事務局長として救援活動に全力をあげるとともに、その年の暮れの総選挙で初当選し、翌年3月の災害対策特別委員会でも広島市の被災者支援について取り上げ、被災者生活再建支援金の拡充を求めました。

したが、国の支援制度は半壊以上の被害にしかなか直接支援がなく、多くの被災者が支援の外に置かれました。翌月の委員会で私は一部損壊にも支援をするよう求めました。当時は、前向きな答弁はありませんでしたが、あれから5、7年、いづれも不十分ながら実現しました。被災者生活支援金は半壊も一部対象になり、災害救助法の住宅の応急修理の支援も一部損壊が一部対象に。被災者が諦めず

2016年10月には倉吉市などを震度6弱の揺れが襲った鳥取県中部地震が起こりました。国会中でしたが翌日に現地に駆けつけました。市内の住家被害の98%が一部損壊で

を動かしてきました。そして、日本共産党の議席は災害から命と財産を守る議席。自己責任を押しつける菅政権からいよいよよって代わる時です。（8月27日記）

地域の話題

豪雨災害による被災者支援制度

雲南市は2021年梅雨前線豪雨等による災害の被災者支援等に30億円の補正予算を計上しました。

主な支援としては、「被災者生活応援支援復旧支援金」：木戸道に堆積した土砂・倒木の除去など（重機等を使う作業）に対象費用の2分の1以内の額（上限20万円）。

「被災者生活再建支援金」：国の制度に加え、市単独事業で一部損壊（準半壊に至らない）、床上浸水、床下浸水の補修に実費（上限20万円）を支給。（「上代かずみの議会報

などの19項目について、早期の対策を要望しました。松江市内の住宅街を流れる意宇川の浸水被害では、党八雲支部の田辺達男支部長が床下や車が浸水した状況を話し、擁壁改良を要望。同下流域に住む竹矢支部の岩本晃司支部長は堤防のかさ上げ、護岸整備などを強く求めました。

雲南県土整備事務所

尾村県議と、むこせ慎一衆院2区予定候補は、8月27日には雲南県土整備事務所を訪れ、被災者から要望のあった砂防ダムに流入した土砂・流

木の撤去と定期的な点検、幹線道路の早期復旧など10項目について対策を要望しました。雲南市の上代和美市議、飯南町の伊藤好晴町議、奥出雲町の川西明徳、田食道弘の両町議が同席し、河川の水位上昇による浸水被害対策や農地災



要望する、むこせ氏（左から2人目）ら

害復旧の受益者負担の軽減などを求めました。雲南市の三刀屋川に注ぐ三谷川からあふれた水が流れ込んだ三刀屋地区の旭町第二自治会の加本敦郎会長（67）、名原茂文班長（78）も参加し、「8月豪雨でも増水した。予防の視点を持った対策を」と求めました。足立和彦所長は「まずは三刀屋川と三谷川の合流部を掘削し広げたい」と述べ、「市とも協議し、対策を講じる」と回答。

むこせ氏は「安心して住み続けられるよう防災・減災対策の強化を」と強調しました。

アソビ

津 トイレ環境整備を新婦人が教育長に

新日本婦人の会の江津支部（山崎淳子支部長）は8月20日、学校トイレへの生理用品の常備とトイレ環境の整備について申し入れました。田中利徳教育長、学校教育課長が応対しました。

申し入れは、①小中学校において、女子トイレに生理用品を常備し、保健室でも生理用品の無料配布を行うこと、②トイレ環境の整備を進めることへの2項目。

教育長は「対応を善処したい」としながらも「予算を伴うことなので、『すぐ

に』と言うことはできない」と回答。トイレ環境の改善については、学校統廃合を計画していることもあり、明言を避けました。6人の会員らは「島根県でも常備する学校が生まれている。江津市でも実現してほしい」と訴えました。（「こうつ民報」より）

吉 老朽空き家対策協議会設置へ

藤井議員は2017年3月議会で「急いで危険な空き家への対策を」と質問。空家の持ち主や相続人への助言指導を行っていたものの、国の財政措置を受ける条件が整っていませんでした。町は協議会を設置し、「吉賀町空家等対策計画」を作成するなど支援に向けた準備を進めています。（「民報よしか」より）

に』と言うことはできない」と回答。トイレ環境の改善については、学校統廃合を計画していることもあり、明言を避けました。6人の会員らは「島根県でも常備する学校が生まれている。江津市でも実現してほしい」と訴えました。（「こうつ民報」より）